

台湾の政治・外交に詳しい東京大の松田康博教授に総統選のポイントを聞いた。新政権に対し、中国がどう出るかが焦点になるといふ分析だ。

——台湾総統選の日本への影響をどう見ますか。

現時点では与党・民進党の頼清徳副総統が選挙戦をリードしています。頼氏が勝てば、日米と協調した対中抑止政策が継続することになります。

——中国は頼氏を「独立派」だと批判しています。「台湾有事」に至りませんか。

中国も表向きは台湾への圧力を強めるでしょう。ただ、私は中国が水面下で台湾との対話を試みるだろうと考えています。

——なぜですか。

中国は国内経済の停滞など多くの問題を抱えています。本音では台湾問題を荒立てたくないのです。来年には米国の大統領選があり、米国のいずれの候補も有権者から対中国で弱腰だと見られる対応はできません。

——中国が衝突を防ぐために対話に乗り出す、と。

中台を一つの国だと認めない民進党の考え方は、台湾を自国の一部だと主張して中国を統治している共産党の存立や正統性を脅かします。共産党は、頼氏に挑発行動をとられれば、たまたまつぶす必要が生じます。

ただ、中国は台湾に武力行使すれば、自らも返り血を浴びることを理解しています。水面下の対話を通じて、中国を挑発する行動をとるなど頼氏に伝えつつ、頼氏の動きをコントロールしようと思えます。

## 米台関係変わらさず

——対中融和を唱える国民党の侯友宜新北市市長ら、野党候補が勝つたらどうなりますか。

どの候補も米国との対中抑止路線を続けると約束しており、米台関係に大きな変化は起きないはず。一方、国民党が勝てば中国は台湾への圧力を和らげるでしょう。

——中台関係は改善しますか。

緊張が緩和する代わりに、中国は統一攻勢を強めるはず。ただ、侯氏や国民党執行部は、かつて馬英九政権で進めた中国傾斜が若者の猛反発を招いた「ひまわり学生運動」の記憶を共有しています。2期目を狙い、すぐには極端な親中政策はとらないと思えます。

——総統選と同じの立法院（国会）選には、どんな意味がありますか。

現在は民進党が過半数を保つ



松田康博・東大教授

まつだ やすひろ  
1965年生まれ。香港総領事館専門調査員や防衛省防衛研究所の主任研究官などを経て、2011年から東大東洋文化研究所教授。

# 水面下で対話？ 統一攻勢強める？ 選挙結果、中国の姿勢左右

——ですが、2000年に誕生していた陳水扁政権は少数与党でした。立法院で重要な法案や予算案を通すことができず、中国にも足元を見られて揺さぶられました。

——どうなりましたか。

陳氏は台湾の独立をめざす動きを続け、有権者の台湾アイデンティティーに働きかけました。04年の選挙で再選されるのに必要な世論の支持を拡大しようとしたのです。

ただ、歴代で最も台湾寄りだったブッシュ（子）米政権から、中台の現状維持に挑戦するトランプリーダーだとみなされ、信頼を失いました。

## 立法院選挙も影響

——現時点では、どの党も過半数を取れない可能性が指摘されています。

仮に頼氏が総統に当選しても、立法院で過半数を失えば、政権運営に苦労するでしょう。

国民党は極めて親中色の強い人物を副総統や立法院長（国会議長）の候補にしています。頼氏を困らせるために武器購入の予算を認めなければ、対中抑止の戦略が狂ってきます。中国も頼氏を追い詰めるはず。中国も

——頼氏は「独立カード」を切りませんか。

陳氏と同じ手段をとる可能性は高くないと思えます。党内で陳氏のやり方は失敗だったと幅広く認識されていますから。

——バイデン大統領は11月、習近平国家主席に台湾の選挙に介入しないよう伝えました。

異例の発言です。台湾には（中国への好意などから）中国の介入はないと思いたい人も多くいます。与野党で介入の有無に関する主張も分かれていますが、バイデン氏は、米国が介入を注視していることを伝えて、中国の動きを牽制したのです。

——日本はどのように選挙を見ればよいですか。

結果がどうなっても、台湾人の民主的な選択を尊重することです。新たな政権が日本や中国にどんな姿勢を持っていても、日本の国益に絡む分野ではしっかりと対話が続け、認識を近づける努力をすることが大切です。